

第 4 期

報 告 書

〔 平成 24 年 4 月 1 日から
平成 25 年 3 月 31 日まで 〕

一般財団法人 日本ドッジボール協会



2012 年度事業報告

一般財団法人として発足し4年が経過致しました。生涯スポーツを目指し2011年度から実施している幼児～低学年、中学生～社会人を対象とした事業はさらに規模を拡大し、より多くの参加者から継続実施の要望を頂いております。

また、国外ではこれまでの台湾協会との交流に加え、韓国において代表チームによる日韓交流戦が実施され、翌年度以降も両国で交互に開催する事が決まりました。さらに、年末には東アジア4カ国・地域の協会によるアジアドッジボール連盟(ADC)が設立され、活動域を広げる足掛かりとなった年でもあります。

年度末にはこれらの活動が20年余の実績と合わせて認められ、公益財団法人日本体育協会への正式加盟申請が承認されました。

1. 全国大会実行委員会

全国大会(夏・春、小学生対象)

例年借用している東京体育館は国体開催及びオリンピック開催誘致に向けた改修期に充てられたため、夏・春共に大阪市の舞洲アリーナでの開催となった。

まず、男子女子混合・女子大会共に代表48チームとなり初の96チームでの開催となった夏の大会では、新たな試みとして、大会日前日に優秀指導者・選手の表彰を行った。結果としてチームに対しては普段の監督会議の情報を時間的な余裕のある段階で伝えることができたものの、一方で運営側では各担当領域の情報共有が不足し、拘束時間が予想以上に増大するという課題も残した。

そこで、春の大会ではスケジュールを再度見直し、また早期に開催地の関西ブロック連絡会との間で作業内容を調整し、マニュアル内に細部まで記載する事で大幅に改善された。

また、大会当日はありがとうメッセージ企画として、参加選手から家族・指導者へ感謝のメッセージを送る企画も実施した。1週間程の募集期間にもかかわらず、参加選手1200名中1000通を超える応募があり、全てを掲示した大会当日は予想以上に好評価を得た。

各メディアにおいてスポーツ界の体罰排除が求められている中で、指導方法改善へ取り組むきっかけとして、今後も技術の優劣のみにとらわれない視点で大会の実施を計画する事とした。

大会の企業協賛・協力については依然単年度が中心であり、中期的な関係を構築するには企業広告だけでなく双方の成長に資する計画の作成が課題となった。

大会名	期日	会場・チーム数
第3回全日本ドッジボール選手権	2012/8/11	会場 舞洲アリーナ
第22回全日本ドッジボール選手権	2012/8/12	予選参加チーム 806チーム
全国大会		全国大会参加チーム 96チーム
第3回春の全国女子小学生ドッジボール選手権全国大会	2013/3/23	会場 舞洲アリーナ
第22回春の全国小学生ドッジボール選手権全国大会	2013/3/24	予選参加チーム 949チーム
		ブロック大会参加チーム 363チーム
		全国大会参加チーム 64チーム

2. 競技委員会

主催大会では競技運営を円滑に行うと共に、ルールの徹底、審判員の資質向上のため諸施策を実行した。常任委員会では審判員育成課題等、競技全般に関し情報交換、研究、検討を行い、全国大会時における審判クリニックでは各地域から派遣される審判員を通じ全国への周知を図った。

①B級公認審判員認定講習会

開催ブロック	開催日	開催場所	受験者	合格者
北海道	—	—	—	—
東北	2012/9/29・30	岩手県 盛岡市本宮地区活動センター 岩手県営体育館	4	1
関東	2012/9/30	埼玉県 さいたま市立徳力小学校	14	6
北信越	2012/10/14	新潟県 三条市立保内小学校体育館	10	1
東海	2012/9/23	三重県 亀山市東野公園体育館	14	4
関西	2012/9/16	大阪府 吹田市立岸辺第一小学校	9	0
中国	2012/5/20	広島県 廿日市市立平良小学校	9	2
四国	2012/6/24	香川県 高松市仏生山公園体育館	9	4
	2012/12/2	高知県 高知県青少年センター 体育館・研修室	4	3
九州	2012/6/10	福岡県福岡市 アクシオン福岡 会議室・サブアリーナ	12	7
計			85	28

合格者数は例年並みで安定しているが、半数近くを占める再チャレンジの受験者に関して、前回受験後の是正（フィードバック）及び対策他が効果的に実施されていない傾向が伺えた。

次年度からは、中央研修会等を通じ受験準備段階における事前研修の方法や指導内容面に関する見直し（精査）を図り、また、指導ポイント要領の伝達を実施すると共に受験者本人の努力（向上心）を踏まえた上での推薦（見極め）を行なう様、確認を行った。

②審判員中央研修会（振興くじ助成事業）

開催ブロック	開催日	開催場所	参加者
北海道	2012/10/20	北海道札幌市 北海道立総合体育センター（北海きたえーる）	11
東北	2012/10/27・28	岩手県盛岡市 本宮地区活動センター	17
関東	2012/11/3・4	栃木県宇都宮市 トライ東・宇都宮市青少年活動センター	26
北信越	2012/10/20・21	富山県射水市 小杉勤労青少年ホーム/小杉体育館	17
東海	2012/12/1・2	愛知県一宮市 アイプラザー一宮	23
関西	2012/11/3・4	大阪府大阪市 大阪市立長原小学校	16

中国	2012/9/8・9	広島県広島市 東区・西区スポーツセンター	29
四国	2012/11/17・18	徳島県徳島市 徳島市 B&G 海洋センター体育館・武道館	28
九州	2012/11/10・11	鹿児島県曾於郡 大崎朝総合体育館	16
計			183

3年目の事業となるが、前年とほぼ同じ参加者数となった。参加者からは継続して開催を希望する意見が多く、今後も一定の需要があることが予想される。グループ討議で集めた意見ならびに参加者アンケートに伴う要望(ニーズ)等を基にカリキュラム及び科目を吟味し、さらに内容の充実を目指すことを確認した。

開催準備に関しては、日程が重なってしまい派遣講師の選定に苦慮する形となった。今後は早期にスケジュール確認を行うことで改善を図る事とした。

3. 普及委員会

インストラクターの資格と普及の活動領域を改めて捉え直し、新規事業として幼児・低学年対象のドッジボール教室、登録チーム指導者対象のコーチングクリニックを実施した。また、今後どの地域でも開催できるようマニュアル化を目指し、両事業における必要な要素の収集を始めた。

①おやこドッジすくうる（振興くじ助成事業）

開催ブロック	開催日	開催場所	参加者
北海道	2012/11/11	北海道恵庭市 市立若草小学校	41
東北	2012/9/2	秋田県秋田市 青少年交流センター「ユースパル」	88
関東	2012/11/3	栃木県佐野市 佐野市運動公園市民体育館	47
北信越	2012/12/15	新潟県上越市 上越総合体育館	82
東海	2012/10/13	愛知県名古屋市 名古屋女子大学天白校舎	51
関西	2012/11/3	兵庫県神戸市 神戸市立須磨体育館	18
中国	2012/12/16	山口県山口市 市立湯田小学校体育館	60
四国	2012/11/17	徳島県鳴門市 鳴門・大塚スポーツパーク体育館 アミノバリュー ホール	77
九州	2012/12/8	沖縄県うるま市 具志川ドーム	58
計			523

今期よりおやこどッジすくうると名称を変更し、親・祖父母と子どもという視点で開催した。教室では参加児童へ簡単なボール遊びを交えた基本技術の指導を行うことで、ボールの投げ方や捕り方、かわし方の上達を図った。また、ルール紹介を必要最低限にとどめ

た形でゲームを行うことで、楽しく仲間づくりやチームワークの大切さを伝えることができた。

インストラクターに対しても、準備を通してどのように教室を運営していけばよいかを学ぶ機会を提供できた。各領域のポイントを絞った計画を立てることで、実際に年齢の違う子どもたちに対して発達段階に応じた対応をとることができた。

2年間で教室のマニュアルはほぼ固まったため、次年度以降はドッジボールに興味を持った子どもと、地域で活動中のチームを結び付けるための具体的な取り組みが課題となる。

②コーチングクリニック（振興くじ助成事業）

開催ブロック	開催日	開催場所	参加者
東海	2012/12/2	愛知県一宮市 アイプラザ一宮	63
関西	2012/10/20	兵庫県神戸市中央区 兵庫県福祉センター	39
九州	2012/9/9	熊本県熊本市東区 熊本県民総合運動公園陸上競技場会議室	67
計			169

クリニックは3ブロックで開催し、講師による講演と参加者によるグループ討議を行った。長くチーム指導に携わった講師が指導例を紹介することで、チーム作りの基礎を学ぶ場を提供できた。

また、グループ討議では監督同志の情報交換が活発に行われ、チームでの問題や悩み等の意見交換が出来たことで、今後のチーム指導者資格の方向性が見えた。

4. 事業委員会

①シニアチャンピオンシップ（振興くじ助成事業）

開催ブロック	開催日	開催場所	参加チーム
北海道	2012/7/29	北海道江別市 道立野幌総合運動公園体育館	18
関東	2012/12/2	栃木県佐野市 佐野市運動公園体育館	18
北信越	2012/7/29	長野県松本市 松本平広域公園体育館	16
東海	2012/9/9	静岡県静岡市駿河区 草薙総合運動場体育館	23
関西	2012/10/14	大阪府吹田市 北千里市民体育館	23
九州	2012/11/4	福岡県筑後市 福岡県営筑後広域公園体育館	32
計			130 チーム

開催2年目となるシニアチャンピオンシップの参加チームは、2011年度86チームから130チームへと増加した。参加チーム拡大と共に競技ドッジボール経験者と初心者の実力差は小学生以上に開いたため、2013年度の本格的な事業実施に向けてカテゴリーを分かりやすく共通化し、双方がスポーツを楽しめるよう整備する事が課題である。

5. ブロック委員会

ブロック内における各委員会事業の調整と、ブロック長としての日本協会との連携が

主な役割となるため、委員会単独の事業は実施していないものの、準備中の指導委員会についての意見交換を開始した。

また、春のブロック大会実施の必要性を検討する中においては、ブロック間・所属都道府県間の格差が広がっていることが確認された。2013年度に向けての課題はその格差を埋める事となるが、全国大会への参加枠の問題等から、ブロックの分け方自体の解釈を変えるなど、従来の9ブロックに捕らわれない意見も挙げられ、引き続き検討を重ねる事となった。

6. 総務委員会

課題の一つとして挙げられていた組織内の連携強化を目的とし、4月に各委員会の委員を全て集めた総会を開催した。大幅に増加した新規事業について、担当領域以外の概要も直接把握することで意識を共有する機会となった。

一方で、地域間の意識の差が非常に大きい事が確認され、今後は各委員間だけでなく、加盟団体との直接の連携強化が課題となった。

会議の開催状況

①委員総会

会議名	開催日	主な審議事項
2012年度委員総会	2012/4/21・22	委員会別・ブロック別各主管事業計画

②評議員会

会議名	開催日	主な審議事項
第1回	2012/6/2	2011年度事業報告・収支決算 追加評議員の選任
第2回	2013/2/16	2012年度事業計画・収支予算 次期役員選定委員

③理事会

会議名	開催日	主な審議事項
第1回	2012/4/21	委員総会、旅費謝金規程改正、日本体育協会加盟手順
第2回	2012/5/12	2011年度事業・収支報告、全国大会協賛企業、 toto 助成事業、JKA 補助事業
第3回	2012/6/2	理事長・副理事長選任、各委員会担当理事
第4回	2012/9/23	助成事業進捗状況、公認指導者制度準備小委員会 夏全国大会反省、翌年度全国大会会場選定
第5回	2012/10/20	春全国大会骨子、シニアカテゴリー制度準備小委員会
第6回	2012/12/15	2013年度助成申請事業、全国大会規則
第7回	2013/2/9	2013年度事業計画・収支予算

7. その他事業

①日本三景松島スーパーカップ（公益財団法人JKA東日本震災復興補助事業）

東日本大震災からの復興を支援するため、公益財団法人JKAの補助を受け、仙台市で大会を実施した。2010年度まで、同大会はチームの独自大会として開催されていたが、2011年は震災のため中止を余儀なくされていた。

2012年も東北地域における震災の影響は残っており、運営方法や規模の検討が重ねられていたが、公益財団法人JKAによる補助金の支援と東北ブロック連絡会及び所属チーム関係者の結束により大会を実施し、参加チームは関東・関西まで広がった。

しかしながら、東北ブロック所属の参加チームアンケートにおいては依然として活動が危ぶまれるチームも存在しており、継続した支援も必要である。

②日本代表チーム結成とアジア連盟の発足

11月に行われた韓国協会主催大会での日韓交流戦に向けて、日本代表チームを結成した。まだ選手の登録制度が伴っていないため、書類による個人の活動実績を基に行った選考であったが、代表チームの意識は高く、韓国だけでなく他の参加国の目標となる活躍を見せた。

12月には、これまで独自に交流が行われていた日本・台湾・韓国・香港の4カ国（地域）の協会でアジア連盟を立ち上げた。同時に、第1回のアジア杯大会は日本で実施する事が承認され、シニアカテゴリーの整備と共に国際競技規則の整備を早急に進める事を確認した。

③公益財団法人日本体育協会正式加盟

2012年度当初より加盟申請に向けた準備を進め、2013年3月27日に正式に承認された。スポーツ団体として、日本におけるドッジボールの正式な統括団体と公に認められた事は、今後の活動の幅を拡げる絶好の機会となった。

同時に、競技スポーツとしても、レクリエーションスポーツとしてもこれまで以上に可能性を追求し、国民の心身の健康に寄与する事が求められる事を再認識した。